

協働のまちづくり説明会記録(岩滝地区)

《開 会》

《説明者等紹介・日程説明》

《市民活動推進課説明》

①地域ですすめるまちづくりについて

(協働のまちづくりについて、自主運営組織のあり方について)

《①に対するの質疑応答》

- ・ これまで行事を行うには、町内会、地区社教等それぞれの団体単位で集まり決めてきたが、これからは団体間が連携し、一緒に決めていくという理解でよいか。この地域は小さな規模なので、新しい組織をつくるとなるとむずかしい。

市からこうしてほしいというものではなく、皆さんでしっかり議論しながら地域の事情にあった形で進めていただきたい。

- ・ モデル地域の活動実績はあるのか。また、平成27年度までに決めることなのか。

高山地域では花里地区、支所地域では一之宮地区をモデル地域としている。花里地区では、こうした組織を作るために連合町内会を中心に準備委員会を組織している。先日一斉ラジオ体操のときにゴミ拾いを併せて行い、組織づくりと事業を掛け合わせて行った。一之宮地区では、間もなく準備委員会が組織される。今後どういう地域にしたいのか議論をし、中身を詰めながらふさわしい事業や組織となるよう取り組んでいる。平成27年度は一つの目安であり、合併特例期間が平成26年度で終わることもあるが、地域の皆さんが納得するように進めることが一番大事であり、多少時期がずれても、それは必要な期間として捉える。

《企画課説明》

②行政ですすめるまちづくりについて

(市民参加条例(仮称)の制定に向けて)

《②に対するの質疑応答》

特になし

《説明全体に対するの質疑応答・意見交換》

- ・ 図2の組織形態のように、実行機能を担う団体が各部会に入るのか。また、事務局はどここのことをいうのか。

組織形態は例えなので、イメージとしてとらえてほしい。協議会的な形になるのか、または、すべての団体が部会等に入って議論をするのか、方法はいろいろ考えられるので、情報は提供させていただく。事務局は地域ごとの設置を想定しており、現在ある地区社教の組織強化をしたものでも良いと考える。

- ・人口の少ない地域は、それぞれの団体の負担額も大きく、組織が増えることにより負担金が増えては困る。市は財政支援をすることでしているが、モデル地区となっているところは、どういう形でどの位の補助金を受けて活動しているのか。また、補助金は人口割りではなく、一定の額に人口割りをプラスする形で交付してほしい。

花里や一之宮のモデル地区では、まだ仕組みや補助金等のルールが決まっていない。基本的には、今あるそれぞれの組織の補助金をまとめて交付する形態となる。具体的な仕組みやルールは、これから皆さんと協議をする中で決まっていくことになるため、現段階では未定である。

《閉 会》